

平成 21 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006-2009

課題番号：18202002

研究課題名（和文）グローバル化状況における国民的・間国民的「想起の文化」の総合的研究

研究課題名（英文）Study of national and inter-national “Collective Memory” in the globalizing world

研究代表者

岩崎 稔 (MINORU IWASAKI)

東京外国語大学・総合国際学研究院・教授

研究者番号：10201948

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史・社会思想史

キーワード：想起・記憶・戦争・文化・思想・追悼・新自由主義・民衆

1. 研究計画の概要

本研究は国民国家内部とそれを越える広域的空間において「想起の文化」が、グローバル化のダイナミクスのもとで、どのように機能しているかを明らかにすることを目的としている。その際、変容や構造転換に焦点をあて、そこに生じる諸相を具体化し、さらに一般理論化することを目指す。それを実現するために、

(1) 課題群を整理し、思想史的研究と事例解釈との連関についての展望を獲得し、研究体制を整備する。

(2) その体制に基づき、南北アメリカや東南アジア、中近東地域、日本、ヨーロッパ等の地域に研究分担者を派遣し、また現地の研究者とともに、あるいは日本にかれらを招請して、国際シンポジウムやワークショップを開催する。

(3) それらの成果に基づく総括を対外的に発表し、「想起の文化論」の構築を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 2006 年度は課題を整理し、以後の研究の展望を得るために、ドイツ、オーストリア、アメリカ、北朝鮮、日本、沖縄における、戦争、占領、移民、追悼、祭祀等のテーマについて検討し、記憶・想起することの意味、そしてそこから生まれる文化に関して多数の研究会・シンポジウムを開催した。

(2) 2007 年度は東アジア、東ドイツ、アイルランド、ベトナムにおける「想起の文化」を巡る個別研究に着手した。特にベトナムにおける戦死者追悼に関して国際シンポジウムを開催し、記念碑と追悼の関係を検討した。また、理論的枠組みを整備するための研究会

も開催し、新自由主義が「想起の文化」に、バイアスを与えているという結論を得、理論・方法論において深化がみられた。さらに、東アジアにおける「想起の文化・記憶の場」に関する研究会合宿を開催し、韓国、中国、日本の研究者 11 名が活発に討議を行うことで、「東アジアにおける記憶の場」論を叙述する雛形を作った。

(3) 2008 年度は引き続き、「東アジアにおける記憶の場」論構築のための研究会合宿を韓国ソウルで開催し、日本から五名が参加し、活発な意見交換が行われた。また、これまでの理論・方法に関する成果を受け、世界各地における過去の想起のあり方にグローバル化・新自由主義が与えている影響に関してシンポジウムを開催し、マイケル・ハートらを招聘し、議論を深めた。さらに、日本近現代史における想起の文化と過去の表象について、また、ヨーロッパと東アジアでの「記憶の場」論との比較検討を行うため、日本、ドイツ、フランス、イタリアの研究者を交え国際シンポジウムを開催した。

なお、これまで三年間の研究成果は東京外国語大学海外事情研究所出版の研究雑誌『クアドランテ』に収められている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：研究開始当初に、想定していたほとんどの地域に関する「想起の文化」については、一回以上の研究会や国際シンポジウムを開催し、分担者ならびにその地域の研究者を内外から招聘、事例解釈やその理論についての思想史的理解を深めることができた。但し、2008 年度招聘予定であった冷戦期の社会主

義圏における文化的記憶と想起に関する研究者であるエングラー氏の来日が都合により今年度に延期されたため、実現していない。

4. 今後の研究の推進方策

本科学研究の計画年度が最後になる今年度は、課題として残ってしまったエングラー氏招聘を実現させ、社会主義圏についての「想起の文化」についての研究を深化させたい。また、日本近現代史における想起に関する研究を徹底させ、沖縄、日本を含めたアジア全般の精緻な「想起の文化」「記憶の場」論の構築に努める。そのために、研究分担者の同テーマにおける研究論文執筆を促進させ、報告書ならびにその出版を目指して活動する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

① 篠原琢「東欧諸国における第二次世界大戦の記憶」『学術の動向』、3月号、88-93頁、2009、査読無

② 岩崎稔「記憶から想起へ ドイツ語圏の作品から」『現代思想』、1月臨時増刊号、212-228頁、2008、査読無

③ 金井光太郎「1812年の戦争による大陸軍の記憶再編と国民国家神話の確立—レパブリカニズムの政治文化からナショナリズムへ—」『クアドランテ』、10号、305-323頁、2008、査読有

④ 今井昭夫「ベトナム中部クアンナム・ダナン在住退役軍人の戦争の記憶」『東京外国語大学論集』、75号、305-325頁、2007、査読無

[学会発表] (計 1 件)

① 岩崎稔「《記憶論的転回》以後の歴史認識をめぐる試論」日本ドイツ学会第 24 回総会、2008年6月21日、筑波大学

[図書] (計 15 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]